



大阪日々新聞紙 十三号

東京傳馬町宇屋敷神田福田野天の棟梁

何某の家は毎夜土時と覚れば頃刻然と個々直黒坊主が現れ出て女房の夜着の側へ

より自らふいせらる事とあり

顛や口もと耕廻す其の粘り

眼は水が女房キヤエ故馬死

心神疲と絶かき一晚親を

泊りて遣りし其夜何の事

も最早妖魅の業し

家々仄と雨び出て是は

大変と皆打よつて百物語り

狐狸の物の任業かとか持や

どうも無陀銭をばのやん事

下と報知六百六十三号の記

花源堂



新改夜金

ホリ改七